

『都市の経済学 小テスト No. 6』

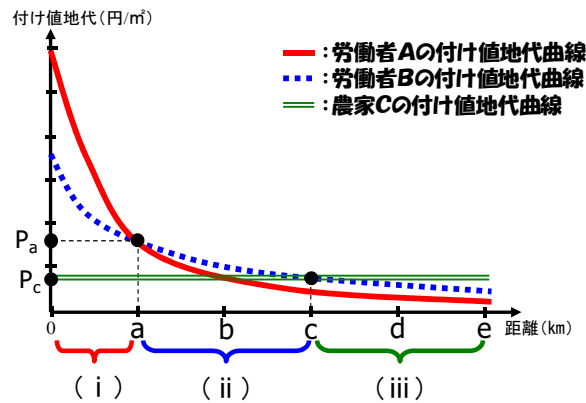
以下の各問に答えよ。ただし、解答はマークシート方式となっているので、選択肢番号を解答用紙（マークシート）に解答すること。※□で囲まれた数字は解答番号を示す。○で囲まれた数字は選択肢番号を示す。

- 合理的な地主は、自分の所有している土地を□1 (①安全に、②問題を起こさずに、③安く、○④高く、○⑤その他) 借りてくれる人に貸す。
- 土地サービスを消費する家計は、予算制約を考慮しながら、効用水準を□2 (①等しく、②変化、③○④最大化、○⑤最小化) し、さらに可能な限り□3 (①安い、○②高い、③異なる、④その他) 地代を提示する。
- 上記のように、家計が提示する地代を□4 (○①付け値地代、②市場地代、③市場価格) と呼ぶ。
- 土地市場の均衡では、家計の選ぶ最適な消費の組合せは無差別曲線と□5 (①需要曲線、②供給曲線、○③予算制約線、④その他) の接点で得られる。このとき、□5の傾きは□6 (①最少、○②最大、③ゼロ、④その他) である。
- 土地市場の均衡では、家計の立地点が変化すると最適な消費の組合せと最適な付け値地代は変化する。CBD への距離が近づくほど小さくなるのは、□7 (○①土地サービス量、②予算制約線、③付け値地代、④無差別曲線)、CBD から遠ざかるほど小さくなるのは、□8 (①土地サービス量、②予算制約線、○③付け値地代、④無差別曲線) である。
- 都市内のある地点 (X) において、高所得型家計と低所得型家計が同じ地代を支払っているとすると、両者の予算制約線の傾きは□9 (○①同じである、②高所得型家計が大きい、③低所得型家計が大きい、④その他)。また、消費する土地サービスの量および得られる効用水準は□10 (①同じである、○②高所得型家計が大きい、③低所得型家計が大きい、④その他)。
- 都市内における土地の利用構造について検討する。問6のある地点 (X) から少しだけ遠い場所での付け値地代について考えると、両者の付け値地代は □11 (○①減少する、②増加する、③変化しない、④その他)。
- 付け値地代の変化は以下の式で表される。このとき、□11の関係は □12 (①左辺、②右辺の分子、③右辺の分母、○④右辺の符号条件) から確認できる。

$$X \text{ が少しだけ増加した場合の付け値地代の変化 : } dR(x) = - \frac{dk(x)}{Q_r(x)}$$
 家計によって異なるのは、□13 (①右辺の分子、○②右辺の分母、③右辺の符号条件) である。□13は高所得型家計のほうが □14 (①小さい、○②大きい、③変わらない) のので、地点 (X) から少しだけ遠い場所での付け値地代の減少幅が大きいのは低所得型家計である。
- 問8から、地点 (X) から少しだけ遠い場所での付け値地代が小さいのは、□15 (○①低所得型家計、②高所得型家計、③その他) である。

裏に続く

10. 労働者 A、労働者 B、農家 C の 3 種類の個人が同一の都市内にいる場合、彼らの付け値地代はそれぞれ図のようになった。この時、区間(i)の土地を借りることができるのは **16** (①労働者 A、②労働者 B、③農家 C) であり、区間(ii)を借りることができるのは **17** (①労働者 A、②労働者 B、③農家 C) であり、区間(iii)を借りることができるのは残りの個人である。



11. このとき、労働者 B の付け値地代が市場地代となるのは **18** (①区間(i)、②区間(ii)、③区間(iii)、④区間(i)と区間(ii)、⑤区間(ii)と区間(iii)、⑥その他) である。